

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム白鳥台 さくらユニット	評価実施年月日	平成21年11月27日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年11月27日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	1、個人の尊重:生活習慣や大切にしてきたことを尊重して自分らしく過ごしていただきます。2、いきがいの成就:趣味やお好きなイベントと一緒に企画楽しんでいただきます。3、ご家族・地域交流づくり:ご家族、地域の方と交流やふれあいを大切にします。以上、上記理念で安定した生活を営むことが出来るように努めています。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	入職時のオリエンテーションに説明を行ない、理解を得るように努力をしています。ホーム内に理念を掲示し、各自に理念シートを作成し個々の意識向上に努めている	○	その人らしい生活の継続を目標に日常ケアの中で理念を意識し職務を遂行できるようにつとめたい。その為、ケアについて具体的なスローガンを決め取り組んでいきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居、契約時に説明を行っている。玄関ホールに理念を掲示し面会時に確認をしていただいている。またケアの一環で利用者様と外に出た折、商店の方や地域の方への認知症の方の優しさ等も伝える努力をしている。また、2ヶ月に1回はグループホーム通信にて近況をお知らせしている。	○	開所し1年が経過したので運営推進会議においても、地域包括支援センターの方や地域の方の参加をお願いする。また、ボランティアの方の協力等で外部との交流も深めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	入居者様との散歩等の外出時に気軽に挨拶をし、声を掛け合いホームを知って頂く努力をしている。地域の小学校の行事への参加も行っている	○	町会の方々との交流を図るため、町会長様宛にお便りをお送りして、交流を図りたい。町会の行事にも参加を進めていきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	平成20年7月の開所式に地域の町内会長や老人会の方の参加をお願いしました。開所後は入居者様が日頃のレク活動で作成した手縫いの雑巾を小学校に寄贈したり、学芸会への招待をうけ訪問を行ない、地域の方々に認知症の理解を深めていただく努力を行っている	○	地域のお祭りやイベントに参加する機会を多くし、地域とのかかわりを積極的に実施できるように検討していきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	電話、訪問での高齢者福祉制度、介護保険についての相談に応じている。また、ホームへの見学に来られた方々には、気軽にホーム内を見学して頂き、質問をお受けするなど認知症についての理解を深めるよう努めている。また、スタッフも支援に役立つご意見については耳を傾け、ケアに反映できるようにしている。	○	認知症理解のためのサポーター講座や利用者様との交流できる取り組みをしていきたい。また、他の老人ホーム、地域のサークル活動をされている方との交流も取り入れたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価についての意義を全スタッフが理解できるように努め、ユニット内で判断した根拠や改善点を話し合い、ケアに反映できるようにしている</p>	○	<p>自己評価の内容をもとに職員全体でケアについて工夫できるようにしていきたい。</p>
<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>入居、退去状況、利用者様のホームでの様子、サービス内容(食事、個別ケア等)、事故報告、研修内容等を報告し、ご家族の要望等で率直な意見を頂きサービスの質を高められるように努めている</p>	○	<p>開所より1年経過しご家族だけではなく、地域の方、地域包括支援センターとの参加協力をお願いし、地域、外部との交流をいたしたい。</p>
<p>○市町村との連携</p> <p>9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>室蘭市GH連絡会の席にて市の職員と情報交換を行っています。また、申請手続きや運営についての打ち合わせが必要な時はこちらから出向いています。</p>		
<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>10 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員の権利擁護事業、成年後見制度についての研修参加を推奨しています。利用者様個々人の必要性がある場合や相談がある場合の対応できるようにしています。</p>	○	<p>地域包括支援センターにご協力を頂き、権利擁護事業、成年後見制度等の研修会を開催していきたい</p>
<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止法の研修会は虐待事例をもとに行ない、職員行動規範等に照らし合わせ職員同士が互いに注意をはらい、虐待が存在しないことを確認すると共に、言葉による虐待、ケアによる虐待防止に向け、話し合いをしている。スタッフひとりひとりがプロ意識を持ち、長い人生の先輩である入居者様に対しては、尊敬の気持ちで接し、温かな気持ちで自然に声かけで接するようにしている</p>	○	<p>繰り返し虐待とはどういうものかを整理できるように研修を継続していく。また職員の精神不良、ストレス、体調不良等から虐待が起きないように健康管理にも気を配りたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書、重要事項の説明を丁寧に行ない、疑問点についてもわかりやすく理解を得るようにしている。入居者の基本情報、ご本人、ご家族の意向も、居宅で担当しているケアマネジャーの協力を得て、理解できる表現で説明をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常生活での会話や行動、表情から一人ひとりの「こうしてほしい」との思いや不満、希望など察するようにしている。利用者の思いを外部に表す機会は少ないが、ご家族が面会に来られた時は、居室で家族と利用者様がゆっくり話す環境をつくり、利用者様の思いをご家族から気兼ねなく話ができる環境づくりをしている		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	2ヶ月に1回はグループホーム通信としてホームでの暮らしぶりや健康状態等を報告している。また、入居者様の状況に応じ、その都度、電話や面会時に連絡、報告をしている。遠くに居られるご家族には、本人に向けてビデオレターを頂くようにしている		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時は管理者や担当スタッフにお話できる機会を作っている。また、外部の苦情受付窓口のお知らせしている。気軽に苦情ご意見を頂く為に、玄関ホールにはがきを設置している。ホーム内の窓口に相談があった場合は迅速に対応し利用者様、ご家族様へ不都合が生じないように職員間で話し合いをしている。年に1回は利用者アンケートを実施し意見を伺っている		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り、会議やミーティングで出された意見、提案を試験的に試みたり、実施して評価を行い利用者により良いサービスを提供できるように工夫をしている。	○	定期的に個々の意見や提案を聞ける機会をもっと増やしていきたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務表を作成し入居者、職員の状態により調整をしている。突発的な状況、行事によるスタッフの確保等においても、管理者、スタッフ間での調整がスムーズに行うことが可能でいかなる場合でも対応は常にできる状態にしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット間のコミュニケーションを図っており、スタッフの移動が必要な場合にも混乱しないように心配りを行ない、いつでも行き来できる状況を作っているが職員も重要な環境の一部と考え、必要最小限としている。やむを得ず離職した場合も混乱がおきないように対応している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設長、管理者は職員の向上意欲に応じて、市内行政、広域連絡会等の研修、認知症研修センター主催等の研修やスキルアップを推奨している。また、同法人の併設している病院の研修会への参加や入居者様の個別の対応を連携して行っている	○	認知症理解の向上を目指して外部研修の参加、研鑽。法人内専門職を交えてのチームケアの実施を継続して行っていきたい
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	職員には、グループワークの研修や広域連絡会等の研修、交流会への参加を進め、職員独自のネットワークづくり、自主性を高めています。また、法人内で10月から事業を開始した地域密着型ケアハウスと合同での研修会や行事の交流を図っている	○	今後も同法人内のケアハウスとの交流、連携を図っていきたい
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	勤務時間内に休憩を必ずとり気分をリフレッシュしたり、管理者に日頃の悩みや不安を相談し助言を求めストレスの軽減の為の手段としている。	○	個々の職員に気を配り、ストレスの状態を把握し軽減に努めたい
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	採用時はオリエンテーションを実施し、経験者には行動チェック表を活用して会得を確認している。職員同士がお互いを高め合い、協力しながら向上心を持って仕事している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	管理者を含め、インテーク面接により、不安や要望をゆっくりと聞く時間をつくっている。居宅で担当しているケアマネジャーとも連携し、対応できるようにしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の一番大変だと思っていることの把握の為、ゆっくり話をするようにしている。混乱されているケースも多いので、入居の必要性がご本人とズレがないか整理するようにしている。医療面での相談については主治医を交え相談している	○	今以上に面会して頂ける機会を多くし、ご家族と共に入居者様の生活を守っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談があり対応している際は、一番困っている事が何なのかを分析して、在宅サービスの導入、変更で対応できないかを一緒に検討している。入居の希望がある場合はホームでの生活している様子を見て頂き、入居者様の生活状況と役割などを個人情報保護に配慮しながら出来るかぎりお知らせをしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	施設内の見学や体験入居をさせてから判断して頂いている。できるだけご本人が入居に納得され、入居されてから不快な気分をもたないように配慮している。居宅担当のケアマネジャーへの連絡を親密にとるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一方的な支援ではなく、入居者様の気持ちによりそう努力をしている。職員側から感謝している気持ちを伝えている。日々入居者から学んだり一緒に笑ったりして関係を築いている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の思いをしっかり受け止め、日常生活での変化に気を配り、連絡を密にして情報の理解、共有に努めている。スタッフの対応だけでは、不安が解消せず精神的な不安定な時には、ご家族に電話をしたり、面会をお願いしたりご家族と共に支える関係を築いている。	○	ご家族との接点を多くし、面会時、入居者を交えての会話や近況を報告し、コミュニケーションを図ってきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	主に面会時にご家族との関係が築かれるように努めています。ご家族が来て頂いた入居者様の喜びを伝え、イベントへの出席をお願いしたり、外出、外泊を自由にして頂きより良い関係を築いて頂くように支援をしている	○	短時間でも良いのでご家族と入居者が一緒に居られる場をつくっていききたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	近所の友人方のご面会や遠方に住まれているご親戚からのお手紙等を頂くようにご家族にお願いしている。面会にいらした馴染みの方からの昔の話などで懐かしそうに目を細め会話されている姿を大切にし、再び面会にきていただけるような雰囲気をつくり情報を頂きケアに生かすようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	普段の入居者様同士の関係を把握し、掃除や外出の組み合わせを考慮している。また、居室での生活を望む入居者様には、リビングに出てこられた時に他の入居者様と関わる時間をつくるよう工夫している。	○	日常生活の中でスタッフがゆっくり関わる時間を多くつくっていききたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	やむを得ず退去となった方には、医療機関への面会をし元気になれるようにお手伝いをしています。ご家族にはホームでのお写真を渡し、近くに来られた時は気軽に訪問していただくように声かけをしています。退去時にはホームへの思い出としてアルバムを作成しお渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人本位の暮らしや思いが実現できるよう努力をしているが、現在すべてがうまくいっているとは思わない	○	ご本人の希望や思いをご家族と一緒に1つでもできるようにしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴を通じて日々その方の人生を知り、その人らしい生活を継続できるように生活状況や心身の状況に合わせて趣味活動や習慣に合わせて工夫している	○	入居前の生活はご家族より聞くことが出来るが、長い人生での習慣や大切にしてきたことを把握し、ケアを行っていききたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ご本人のできる事、出来ない事、望む事などに耳を傾け、個人の生活リズムに合わせて、居室で落ち着かれている方は居室で過ごして頂き、声かけ、見守りに努めている。記録については、1日の生活や心身の状況を細かく記載し申し送りなどで職員全員が現状把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者様一人一人に担当のスタッフが付き、利用者様の生活状況の把握、ご家族との連絡を行っている。日常生活の中で、何をしてほしいのかを汲み取り、利用者様ご家族の希望、意見を盛り込んでいる。計画の見直しの際にはスタッフ全員で検討をし、医療面から看護師の意見も取り入れたケアプランになるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	身体状況等の変化で見直しが必要となった場合にカンファレンスを開催して新たな計画を作成している。また日々の入居者様の心身の状況を把握し、変化に応じて、申し送りなどで管理者、スタッフ間での意見交換しより良いケアの提供の見直しを図っている		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日中、夜間共に介護記録への記載漏れ、スタッフ間での伝言漏れ、伝言等の間違いがないようにスタッフ間で互いに注意し、介護計画の見直しを円滑にできるように努めている	○	個人の日々の記録を利用し、職員間での情報を共有してケアにいかせるように努力している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院に隣接している為、遠方の医療機関以外の定期受診は看護師やスタッフが同行させて頂いています。ご家族と共に外出や、外泊等は自由にできるように対応をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	避難訓練を実施している。大正琴のボランティアが来られたり、民生委員の方が面会に来られ話をさせて頂いている	○	さまざまな地域とのかかわりを積極的に深めていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	保険適応外のサービス利用の希望がありません	○	保険外サービスの情報を収集し、必要時は利用の検討を行ってきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	権利擁護等についてもご家族が対応してくださっているケースが多いので包括支援センターとのかかわりは少なかった。	○	運営推進会議の参加、認知症理解の地域研修の計画等で連携を図りたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者、ご家族の希望で主治医を決定している。ご本人の希望により、同法人の医師に受診することも多くなっているが、他科の場合は専門医を受診している。協力病院として母体の病院と連携し、夜間帯、緊急時にはホーム内の連絡網を活用し、ホームの看護師より、母体の病院への連絡し、病院長、当直医の指示を受けられるようにシステムを作っている。歯科診療についても協力医の支援を受けている		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	法人内の医師に相談し、必要時には専門的診断を受ける為の受診調整を行ない、入居者様が安定した生活を送ることができるように配慮している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	非常勤の看護師を配置しており健康管理を行っている。入居者の健康状態の変化があっても、24時間の連絡体制を整えている。また、日常のバイタルサインの変化を看護師へ相談している。母体の病院の看護師等への相談や専門職との連携を図っている	○	医療的知識の研修等を行ない、看護師と協力をしてケアを充実させたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関の医療相談員と連携を図り、退院可能なレベルを早い時期から調整しホーム内での受け入れ体制を整えるようにしている。入居者様の面会をさせて頂き、必要時は洗濯物の受け取りなどを介助させて頂き退院後の受け入れを常に備えている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居の際、利用者様、ご家族のご希望を伺い、健康管理及び看取り介護の指針の同意を頂き、準備をしている	○	重度化に対応するような話し合いの体制が必要
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ホームでの生活を可能な限り、送っていただきたいと考えており、主治医、看護師、介護職の間で、ご家族のご意向に出来るだけ沿うことができるようにしている。緊急時の主治医との連絡を速やかにとれるような体制をとり、ご家族ともに終末期の身体的苦痛や不安、恐怖心の軽減を重点に置きケアできるように準備しています	○	終末期ケアについての職員の意識や入居者様のご家族様の意向を確認し検討する必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>退去が決定した早い時期から居宅担当のケアマネジャーと連絡をとり、生活上必要な介護サービスの調整を行う。生活上必要な日用品についても説明をし、支障がないようにしている</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者の状況等に応じた声かけを心がけている。記録も時間を決め記載し、他の時間は人目につかないように配慮している。</p>	○	<p>個人記録が行ったその日に行為、客観的に事実のみの記載となっている事が多く、今後は利用者が話をしたこと、興味をもった事を記載できるように工夫したい</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者様の話を傾聴し、思いを大切に支援をしている。できない事は納得して頂けるまで説明できるように努めている。</p>	○	<p>行事やご本人の誕生日などは好きな物を提供していきたい。</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者様が自宅で自由に暮らされていることを想定し出来る限り、個人のペースを守るように努力しているが、食事の献立は栄養士が立て、入浴日についても目やずとして決まっているものも多い</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご自身で選べる方には、自由に好みの洋服を着て頂き、おしゃれを楽しんで頂いている。理、美容がご希望で、美容師さんに訪問していただいたり、外出されたりとご家族、ご本人に選んで頂いている。衣服の汚れなども注意して取り替えていただくようにしている</p>	○	<p>美容師さんには注文をしてその方に合わせた髪型も工夫したい。</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者様の好みの米飯のかたさや味付けを伺い話をしながら出来るだけ満足して頂くようにしている。また、食事の準備などできるだけチャンスをつくり、入居者様の力を生かす努力はしている。</p>	○	<p>食事の準備など、入居者様全員に見守りの中して頂けるように工夫をしたい</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	女性が多くお酒、たばこ等は好まないですか、おやつはこちらで用意をして選択していただいたり季節のものを入れたり工夫をしている。	○	医師の許可があれば、お酒や刺身などの生ものなどを時には提供できる機会をつくり、日常とは違う雰囲気味わう取り組みを工夫したい
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを把握し尿意が多くても希望に応じ我慢することなく誘導している。全介助の方についても昼食後、排便を促す為にトイレでの排泄を実施している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日は目やすとして職員が決めているが、その方の体調や気持ちの合わせて入浴を実施している。	○	入居者のペースや生活パターンに合わせた入浴ができるように努めているが、職員の都合による場合があり今後検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	居室とリビングで居られる事については個々の入居者の意思に任せている。移動が必要な方は誘導している。共用部分については他の入居者の危険等を考慮し、照明を調整している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事のお手伝いやレク活動での縫い物やビーズ手芸、新聞を読んだり個々の役割や趣味活動の援助は実施している	○	外出の機会が少なく気晴らしに買い物に出かけたり、ご家族から情報を頂き楽しめるものを工夫し、充実した1日を送って頂く。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談をして入居者の理解度により所持されている。ホームでお預かりしている場合でも、ご本人の希望で対応できるようにしている	○	外出の際など、お金を持ちご自身で使う機会を持つことができる機会をつくっていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	春には花見に出かけたり年に何度かは行事はある。天気の良い時に散歩に出かけているが、全員ではなく内向的な方はほとんど室内に居られる事が多い	○	もっと気軽に散歩や買い物に行く事ができるようにしたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族との外出・外泊は制限なく自由にして頂いている		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族からの電話はいつでも受け付けており、ご家族に連絡したいと言われた時には、ホームの電話を使用し連絡をつけている。ご家族から手紙なども自由にやりとりができるように支援をしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は朝から21時で面会ができるように対応をしている。訪問時は温かくお迎えし自由に過ごすして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	該当ケースはないが、ケース事例の検討や研修を実施している。マニュアル等を職員に配布されており、転倒のリスクはあるが身体拘束をしないケアを工夫している	○	身体拘束による身体的、精神的な弊害について研修を実施していきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居様様が自室、トイレの鍵をかけておられる場合は、その行為を尊重し、こちらから玄関等の施錠をすることはない。玄関の自動ドアはボタンを押さないと開閉しないようには工夫している	○	外に出たいなどの願望は聞かれませんが、継続してホームで穏やかに暮らすことができるように関わっていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	リビングには常に職員がおり、入居者様の行動や居られる場所を把握し見守りを実施している		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険なものは目につかない場所に保管し、使用時は職員の見守りや声かけなどで制限は出来るだけしないようにしている	○	夜間帯は職員が少ないので、配慮する必要がある
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書はもちろんのこと、ヒヤリハット報告書を作成し、事故防止の為に取り組みをしている。安全防止の為に、バルコニーの窓は15cmのみ、開閉するように工夫している	○	リスクを常に意識することを目的に軽度の危険度でもヒヤリ・ハット報告書を記載する。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	開所時には、病院本体の看護師との連絡、緊急時の対応の研修を行ない、開所後はサービスマニュアル(緊急時、応急処置)を作成し、資料勉強会、研修を行ない適切な対応ができるように準備している。	○	職員が定期的に学べるよう努力が必要である為、計画を作成する
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時マニュアルを作成し、法人内で連絡体制を整備している。入居者の方を安全に避難出来るように避難訓練を実施し、日頃より防災器具のチェックを行っている		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者様の身体状況から転倒、骨折のリスクがない様にスタッフが付きそうようにしている。感染防止の為に、うがい、手洗いを声かけしながらスタッフも含めて一緒に実施し抑圧感のないように工夫している。糖尿病の食事療法等も他の利用者様と差別感が起きない配慮をしている	○	細かな変化でもご家族に連絡していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝、バイタルチェックを行ない、体調の変化については看護師と相談し、受診が必要な場合は協力医療機関へ受診するようにしている。情報の共有については、介護記録を利用している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が服薬のセットを行ない、服用されている薬の内容はファイルをつくりいつでも確認できるようにしている。糖尿病薬や利尿剤服用の方などは症状の変化に注意するように看護師より介護員に指導している	○	排泄、水分表に服薬もチェックできるように、スタッフが責任が持てるように工夫したい
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個々の排便状況を把握し便秘時の対策として水分や運動の促しを行なっている。また、主治医や看護師との連携に努めている	○	食事やおやつの中に乳製品を多く取り入れるようにしたい
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	外出後のうがいや朝・夜のはみがきの促し、義歯については消毒を行っている	○	自分で口腔ケアができる入居者様についても確認していく必要がある
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	同法人の栄養士がメニューを作成しそれにしたがって調理を工夫している。水分量も個々に合わせて看護師と相談している。食事摂取量や水分量は時間ごと記載し、体調や嗜好を考慮し、楽しみながら摂取できるように支援をしている	○	入居者様によって水分量に差が大きく工夫が必要
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防に関する研修会を行ない、知識を高めている。排泄後、食事前、外出後の手洗い、うがいを促し利用者、スタッフとも励行している。排泄介助等はグローブを着用し感染防止には日々努めている。インフルエンザについてはワクチンを接種している	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材の鮮度を確認し使い切るようにしている。冷蔵庫内の点検・整理・テーブル拭きを実施している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	スロープを設置し歩行や車椅子での出入りが安全にできるようになっている。玄関前に花壇があり明るい雰囲気づくりがなされている。入居者様の靴の脱ぎはきに危険がないように椅子を配置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各空間にあった照明や日差しがはいる窓にするなど工夫している。キッチンリビングに面しているので食事の支度や音、においを感じていただいている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共同空間の中で1人になれるのは難しいが、リビングにテーブルソファを設置し自由に座って居られる。廊下の椅子を設置しているがあまり使用していない様子である		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際に、身の回りにあるなじみの家具、食器などを持参して頂き自宅で過ごしていた心地よさをつくることができるように工夫をしている。ご家族の写真なども置かれている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	24時間換気設備とし、温度計、湿度計を各ユニットに設置している。適時チェックをし換気による温度差等で不快が生じないように配慮している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>廊下、トイレ、浴室に手すりを設置しており、入居者様の身体状況に合わせてエレベーターも設置している</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレ、浴室、各居室前に表示板を設置している。居室内の衣装ケース等には品名を貼り、衣類の出し入れが自立してできるように配慮している。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>前庭にベンチなどを置き、外気に触れたり花壇の水やりを楽しまれている</p>	<p>○ ベランダを利用しプランターなどを置き、植物や野菜の収穫なども楽しみたい</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

ホーム開設より1年が経過し穏やかに生活していただいている。入居者様一人一人の個性を尊重し自宅での暮らしの自由さを出来るだけ損なわず孤独感や不安のないように安心した生活が提供できるようにし、今後はもっと外に出る機会を増やしていきたい。気軽に買い物などに行き楽しみを見つけられたり、時にはわがままや愚痴も遠慮なくスタッフに話ができるような家庭的な生活空間をつくる努力をしていきたい。